

## 9. 農薬耐性菌検定実施状況

(1) 対象病害：灰色かび (*Botrytis cinerea*)

(2) 検定薬剤：菌糸生育度調査………チオファネートメチル剤、プロシミドン剤、ジエトフェンカルブ剤、フルジオキシソニル剤、アゾキシストロビン剤、ピリベンカルブ剤  
 孢子発芽阻害度調査…メパニピリム剤、ペンチオピラド剤

(3) 対象作物、検定法および結果

作物	検定結果 (耐性菌株/検定株数)	検定法	防除効果
トマト	チオファネートメチル剤	培地：メパニピリム剤 FGA平板培地 ペンチオピラド剤 YGA平板培地 アゾキシストロビン剤 ピリベンカルブ剤 SHAM 1 mM添加PDA平板培地 上記以外の薬剤 PDA平板培地  培養温度：20℃  培養時間：メパニピリム剤 96時間 ペンチオピラド剤 168時間 上記以外の薬剤 48時間  薬剤濃度： チオファネートメチル剤 10、100ppm プロシミドン剤 5ppm ジエトフェンカルブ剤 0.3、10ppm チオファネートメチル剤 1ppm + ジエトフェンカルブ剤 10ppm  メパニピリム剤 3ppm ペンチオピラド剤 1ppm フルジオキシソニル剤 0.2ppm アゾキシストロビン剤 100ppm ピリベンカルブ剤 100ppm  測定項目：菌そう直径  判定基準： 下記の各薬剤濃度における菌そう生育の有無 チオファネートメチル剤 弱耐性 10ppm " 高度耐性 100ppm プロシミドン剤 中度耐性 80%未満※ " 高度耐性 80%以上 ※菌そう直径を薬剤無添加培地と比較 ジエトフェンカルブ剤 弱耐性 0.3ppm " 高度耐性 10ppm メパニピリム剤 感受性低下 3ppm ペンチオピラド剤 感受性低下 1ppm フルジオキシソニル剤 耐性 0.2ppm アゾキシストロビン剤 耐性 100ppm ピリベンカルブ剤 耐性 100ppm	チオファネートメチル剤高度耐性菌の割合は昨年度と比較して増加した。 ジエトフェンカルブ剤は昨年度より高度耐性菌の割合が減少し、弱耐性菌の割合が増加した。 プロシミドン剤中度耐性菌及びペンチオピラド剤感受性低下菌の割合は昨年度と比較して減少した。 今年度から検定を実施したアゾキシストロビン剤耐性菌の割合は高かった。 メパニピリム剤感受性低下菌の割合は昨年度と同等に低かった。 フルジオキシソニル剤耐性菌及びピリベンカルブ剤耐性菌は検出されなかった。
	感受性 2.4% (1/41)		
	高度耐性 97.6% (40/41)		
	プロシミドン剤		
	感受性 92.7% (38/41)		
	中度耐性 7.3% (3/41)		
	ジエトフェンカルブ剤		
	弱耐性 92.7% (38/41)		
	高度耐性 2.4% (1/41)		
	メパニピリム剤		
	感受性低下 2.4% (1/41)		
	ペンチオピラド剤		
	感受性低下 26.8% (11/41)		
フルジオキシソニル剤			
耐性 0% (0/41)			
アゾキシストロビン剤			
耐性 75.6% (31/41)			
ピリベンカルブ剤			
耐性 0% (0/41)			
イチゴ	チオファネートメチル剤	(同上)	チオファネートメチル剤高度耐性菌及びメパニピリム剤感受性低下菌の割合は昨年度と比較してやや増加した。 プロシミドン剤中度耐性菌及びペンチオピラド剤感受性低下菌の割合は昨年度と比較して減少した。 ジエトフェンカルブ剤は昨年度より高度耐性菌の割合が減少したが、弱耐性菌の割合が増加した。 今年度から検定を実施したアゾキシストロビン剤耐性菌の割合は高かった。 フルジオキシソニル剤耐性菌及びピリベンカルブ剤耐性菌は検出されなかった。
	感受性 55.0% (11/20)		
	高度耐性 45.0% (9/20)		
	プロシミドン剤		
	感受性 95.0% (19/20)		
	中度耐性 5.0% (1/20)		
	ジエトフェンカルブ剤		
	弱耐性 25.0% (4/16)		
	高度耐性 68.8% (11/16)		
	メパニピリム剤		
	感受性低下 6.3% (1/16)		
	ペンチオピラド剤		
	感受性低下 56.3% (9/16)		
フルジオキシソニル剤			
耐性 0% (0/16)			
アゾキシストロビン剤			
耐性 45.0% (9/20)			
ピリベンカルブ剤			
耐性 0% (0/20)			
花き類	チオファネートメチル剤	(同上)	チオファネートメチル剤高度耐性菌の割合は昨年度よりやや増加した。 ジエトフェンカルブ剤の高度耐性菌及び弱耐性菌、メパニピリム剤感受性低下菌の割合は昨年度とほぼ同程度であった。 今年度から検定を実施したアゾキシストロビン剤耐性菌の割合は高かった。 また、割合は低いものの、昨年度は確認されなかったプロシミドン剤で耐性菌が確認された。 ペンチオピラド剤感受性低下菌、フルジオキシソニル剤耐性菌、ピリベンカルブ剤耐性菌は検出されなかった。
	感受性 28.6% (4/14)		
	弱耐性 7.1% (1/14)		
	高度耐性 64.3% (9/14)		
	プロシミドン剤		
	中度耐性 7.1% (1/14)		
	ジエトフェンカルブ剤		
	弱耐性 50.0% (7/14)		
	高度耐性 42.9% (6/14)		
	メパニピリム剤		
	感受性低下 28.6% (4/14)		
	ペンチオピラド剤		
	感受性低下 0% (4/14)		
フルジオキシソニル剤			
耐性 0% (0/14)			
アゾキシストロビン剤			
耐性 50.0% (7/14)			
ピリベンカルブ剤			
耐性 0% (0/14)			

### (4) 指導概要

施設の環境改善や系統の異なる薬剤のローテーション散布を徹底し、耐性菌の発生を抑制する。新規の薬剤で効果の高いものを積極的に取り入れていく。また、今後も耐性菌の種類とその発生推移を地域、ほ場レベルで詳細に調査する必要がある。